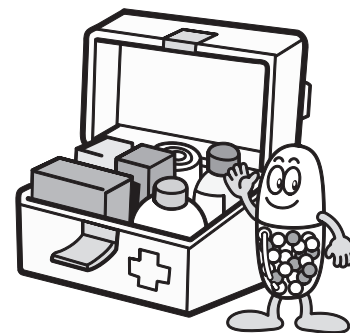


く す り ば こ



58. 転倒・転落を起こしやすいくすりについて

転倒、転落による骨折は高齢者の寝たきりの原因となります。

1. 転倒、転落の原因としては、

- ①加齢や疾患に伴う身体機能の低下やくすりの服用による内的要因
- ②段差や滑りやすい床、つまずきやすい障害物、照度不足、体に合わない履物等生活環境による外的要因の2つの要因があります。

2. 転倒、転落を起こしやすい主な疾患を次に示します。

- ・循環器系—高血圧、不整脈、起立性低血圧、心不全、虚血性心疾患、脳循環障害、脳血管障害、硬膜下血腫、一過性虚血性脳疾患
- ・神経系—パーキンソン症候群、脊髄障害、末梢神経障害、てんかん、小脳障害、認知症
- ・筋・骨格系—骨関節炎、骨折脱臼、慢性間接リュウマチ
- ・視覚系—白内障、緑内障、屈折障害、視力不調節

3. くすりによる転倒、転落の危険性について

くすりによる転倒、転落の原因は眠気、ふらつき、めまいなどの精神機能の低下と、脱力、筋緊張低下などの運動機能低下によるものがあります。

これらはくすりの副作用として現れます。もとの病気の障害にくすりの副作用が加わり、危険性が増大します。特に高齢者では代謝機能の低下、複数の疾病に罹っている、服用薬剤数が多い等これらの副作用が強く現れます。

4. 転倒、転落の危険性を増大させる原因となる副作用とくすりについて以下に示します。

眠気・ふらつき	ベンゾジアゼピン系睡眠薬、バルビツール酸系睡眠薬、抗不安薬、抗精神薬、抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬
めまい・失神	降圧薬、抗うつ薬、抗コリン薬、抗不整脈薬
低血糖によるめまい、ふらつき意識障害	インスリン製剤、血糖降下剤
脱力・筋緊張低下	筋弛緩薬、ベンゾジアゼピン系睡眠薬、抗不安薬
視力障害	抗コリン薬、抗てんかん薬、ステロイド剤
パーキンソン症様症状	抗精神薬、抗うつ剤、制吐剤、胃腸機能改善剤

特に中枢神経抑制作用と筋弛緩作用を有するベンゾジアゼピン系睡眠薬や抗不安薬には注意が必要です。用法、用量を守り漫然と服用することは避けましょう。

これらのくすりについて心配のある方は医師、薬剤師に相談してください。

また高齢者のいる家庭では、住居のバリアフリー化等住まいの環境改善をすることにより、転倒、転落事故防止に役立ちます。



薬剤部 松浦 功文